

2024年第16週の報告です。

京都府全体の定点報告対象疾患の報告数は**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**が2.36件、**RSウイルス感染症**が2.1件で微増が続いています。保健所別では京都市右京区の**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**の報告が5.6件あり、先週に比べて少し減少はしましたが警報レベルが継続しています。**咽頭結膜熱**は山城南で3.5件の報告があり、新たに警報レベルになりました。ほかに、**インフルエンザ**は丹後で10.5件、**水痘**は京都市左京区で1.0件の報告があり注意報レベルになりました。

全数報告対象の感染症は、**結核**が4件、**レジオネラ症**が1件、**アメーバ赤痢**と**梅毒**が各1件報告されました。また、基幹定点では**マイコプラズマ肺炎**が2件報告されました。

毎週のように報告が続いている疾患が**結核**です。**結核**は、毎年新たに1万人程度の患者が発生しています。2020年からの罹患率は減少しているものの、**新型コロナウイルス感染症(COVID-19)**の影響も考えられ、引き続き、注意深いモニタリングが重要です。結核菌は空気感染により一般的には肺で増えて、咳、痰、呼吸困難等の症状を呈することが多いですが、腎臓、骨、脳など肺以外のあらゆる部位に感染し発症することがあります。また、結核菌に感染してもすぐには発症せず、体内に留まったのちに活動を開始し、遅れて発症することもあります。**結核**を発症した場合、無治療では死亡率が高いとされており、特に髄膜炎を発症した場合は30%近くの方が亡くなり、治った場合でも後遺症が残ることがあります。

発熱・上気道炎などの呼吸器症状・関節痛・倦怠感などが見られましたら、流行が続く**COVID-19**、**インフルエンザ**や**A群溶血性レンサ球菌**、**肺結核**などを念頭に置いて医療機関を受診の上、診断やその後の治療・対処について指示を受けるようにして下さい。